

2023年度 駿台懇話会

第29回連合駿台会学術賞・連合駿台会学術奨励賞受賞者は下記の通り決定いたしました。

1.連合駿台会学術賞

【社会科学】

鈴木賢(法学部専任教授)

『台湾同性婚法の誕生——アジア

LGBTQ+燈台への歷程』

【自然科学】

宮下芳明(総合数理学部専任教授)

『Design of Electrical Stimulation Waveform for Enhancing Saltiness and Experiment on Low-Sodium Dieters』(「塩味を増強する電気味覚波形の設計と減塩生活者を対象とした評価実験」)

2.連合駿台会学術奨励賞

【人文科学】

谷口良生(文学部専任講師)

『議会共和政の政治空間——フランス第三共和政前期の議員・議会・有権者たち』

〈駿台懇話会 式次第〉

日時：2024年1月24日(水)

午後5時30分(受付開始午後5時)

場所：明治大学アカデミーコモン2階

ビクトリーフロア隣の鐘

進行：明治大学研究推進部長 河野 理

第1部 学術賞受賞記念講演会

(午後5時30分)

1 挨拶 連合駿台会会長 田村 駿

2 講演 総合数理学部専任教授 宮下芳明

「味覚メディアが拓く未来」

第2部 学術賞・学術奨励賞授賞式

(午後6時15分)

1 挨拶ならびに表彰状授与

明治大学長 大六野耕作

2 記念品授与 連合駿台会会長 田村 駿

3 受賞者挨拶

社会科学分野 法学部専任教授 鈴木 賢

自然科学分野 総合数理学部専任教授 宮下芳明

人文科学分野 文学部専任講師 谷口良生

第3部 懇親会

(午後6時45分)

1 大学メンバー紹介

2 挨拶 学校法人明治大学理事長 柳谷 孝

3 乾杯 明治大学長 大六野耕作

4 閉会の辞

連合駿台会副会長 三枝富博

(敬称略)



連合駿台会報

No.365 令和6年3月20日発行
発行・編集 連合駿台会
発行人 広報委員長・齋藤柳光
編集人 事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052 千代田区神田小川町三―三二
明治大学「紫紺館」内
電話(〇三) 三二九六―四七四七
印刷 有限会社 美創



(左から) 柳谷孝理事長、鈴木賢先生、宮下芳明先生、田村駿会長、谷口良生先生、大六野耕作学長

まず、田村駿会長から次のような挨拶がありました。

記念講演会の開会にあたり、まず能登半島地震の被害に遭われた方に対し心よりお見舞い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスで本賞の運営が小規模になった年が続きましたが、本年第二十九回はコロナ以前にも増し、募集は過去最大の十六作品がエントリーされ、受賞者の講演、大学と連合駿台会による授賞式、懇親会の開催など以前の交換会が開催されることは嬉しい限りです。大学の使命は教育・研究そして、人材と研究を通じて社会に貢献することであり、大学が研究力を高めることは大学の評価・ステイタスに直結し、重要課題と思います。

今回の応募者は十六人中、四名が女性、五十歳以下の研究者が九名で、研究者の幅が広がり、将来を期待できる優れた内容が多かったと言えます。学術賞・学術奨励賞を受賞された三点については研究成果を社会に繋げる秀逸な内容です。長年にわたる研究のご努力と成果に対し心よりお祝い申し上げます。

また、受賞の募集・選考に携わった研究知財部の皆様、各研究所の皆様、ならびに、選考委員会の十九名の選考委員のご努力に感謝を申し上げます。「研究も明治」と言われ、大学の総合力を高めるべく一層の研究力の向上を願っております。

講演の要旨は以下の通りです。

味覚メディアが拓く未来

このたびは連合駿台会学術賞（自然科学）をいただき、とても光栄に思います。受賞論文「Design of Electrical Stimulation Waveform for Enhancing Saltiness and Experiment on Low-Sodium Dieters（塩味を増強する電気味覚波形の設計と減塩生活者を対象とした評価実験）」は2022年のものですが、これには「前の話」と「後の話」があります。

まず「前の話」をすると、そもそも我々が電気味覚の研究を始めたのは十年以上前でした。当時大学院生だった中村裕美さん（現在は東京大学大学院 特任准教授）と発表した「Augmented Gustation using Electricity」において食器に電気を流して食体験の味覚を拡張することを提案したのがはじまりです。この論文が先日、イグ・ノーベル賞（栄養学）を受賞しました。宮下研究室が味覚メディア研究を始めた最初期の論文が、ようやく世界的に評価されたのだと思っています。

連合駿台会学術賞の対象論文は、2019年からキリンホールディングスと共同研究を行った成果として発表した研究になります。食器に電気を流すと、味覚の受容体に対する

直接刺激やイオン泳動によって味が変化しますが、特に減塩食にスポットを当て、電気味覚の塩味増強効果で健康かつ美味しい食事を実現することを目標として行いました。電気味覚の波形設計システム「TasteSynth」を開発し、それを用いて、陰極刺激と陽極刺激を組み合わせた特殊な波形をデザインしました。それによって塩味の増強が可能であることを示した後、36名の減塩生活者による評価実験を行いました。減塩食品を模した濃度の食塩水ゲルに電気刺激を加えると、電気刺激なしの通常食と同等の塩味強度を実現し、定性的な評価でも塩味やうま味の増強によって減塩食の美味しさが向上したことがわかりました。また人によっては電気味を感じた参加者がいたため、ユーザに合わせて提案波形を選択することで改善しました。これをもとに開発され、販売間近なのが「エレキソルト」という商品です。これにはお椀型・スプーン型があり、これらの食器に電気が流れ、塩味が増強される仕組みになっています。たとえば塩を半分にカットしたラーメンでもおいしく食べられます。

当研究室での味覚メディア研究は、電気味覚を用いたものだけではありません。液体を噴霧混合することで再現する味覚ディスプレイの研究も行っています。いわば、遠隔でも味を届ける「テレテイスト」「テレイート」

を実現しました。そして2023年、その先の技術として、株式会社NTTドコモ・H2L株式会社とともに「相手の感じ方に合わせた味覚を共有する技術」を開発しています。味覚共有のビジョンを映像化したテレビCM「あなたと世界を変えていく。(フィールテック・味覚共有篇)」を見ていただくと思われるのですが、スプーン型のデバイスを用いて彦摩呂さんが食レポするブイヤベースを、綾瀬はるかさんがテレビを見ながら疑似体験する映像になっています。

最新の味覚メディア研究としては、「味のタイムマシン」についての研究も発表しました。食べ物が熟成する過程を味センサーで測定することで、たとえば作りたてのカレーを数日後の味に変えたり、逆にそういうカレーを作りたての味に戻せたりできるようなりしました。ここまで味を自在に操れるなら、もはや「賞味期限は死語にできる」と思っています。

このように、味覚メディアによって拓かれるのは、美味しさと健康を両立した未来だけではありません。食糧問題の一助にもなりますし、これまでになかった味体験を生み出す、人類をより幸せにする可能性もあるのです。その未来を引き寄せるべく、今後も研究を続けていきたいと思えます。

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方を紹介します。(敬称略・到着順)



栗林 伸治
昭和三十五年・商学部卒
社会福祉法人飛鳥
理事長
福島県いわき市在住



原 卓実
平成二十五年・商学部卒
三洋クラブ(株)
取締役・営業本部長
長野県伊那市在住



藤井 雅則
昭和四十八年・工学部卒
三機工業(株)
テクノセンター運営補佐
神奈川県横須賀市在住

◆明大ニユース

●二氏に学術賞、二氏に学術奨励賞

第二十九回「連合駿台会学術賞・学術奨励賞」の授賞式が一月二十四日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで執り行われ、法学部の鈴木賢教授と総合数理学部の宮下芳明教

授が連合駿台会学術賞を、文学部の谷口良生専任講師が連合駿台会学術奨励賞を受賞した。

同賞は、連合駿台会が、本学教員らによる学術研究上の優れた成果を表彰するもの。学術賞は社会科学分野から鈴木教授による「台湾同性婚法の誕生——アジアLGBTQ+燈台への歷程、自然科学分野から宮下教授による「塩味を増強する電気味覚波形の設計と減塩生活者を対象とした評価実験」(※英文論文の邦題)が受賞した。学術奨励賞は、人文科学分野から谷口専任講師による「議会共和政の政治空間——フランス第三共和政前期の議員・議会・有権者たち」が受賞した。

授賞式は連合駿台会の駿台懇話会として開催され、第一部の学術賞受賞記念講演会に宮下教授が登壇し、「味覚メディアが拓く未来」をテーマに講演を行った。第二部の授賞式では、大六野耕作学長と連合駿台会の田村駿会長から、受賞者へ表彰状と記念品、副賞の目録が授与された。

その後、三氏がスピーチに立ち、「夢や希望のある日本を若者に残していきたいという思いを持って教育・研究を続けていきたい」(鈴木教授)、「受賞は『もつと頑張れ』という激励だと捉えている。これからも頑張りたい」(宮下教授)、「明治大学に着任した初年度に書き上げた書籍を評価いただいた。協力いただいた多くの先生方に感謝している」

(谷口専任講師)と受賞の喜びや関係者への謝意、今後のさらなる研究活動への意欲が語られた。

●評議員会を開催―永年勤続表彰も

二月二十二日、駿河台キャンパス・アカデミーホールにおいて第十九期評議員による最後の評議員会が開催された。審議内容は二〇二四年度事業計画案、予算案の承認など。

閉会後には、同会場で清水秀夫評議員の永年勤続表彰が行われた。これは、学校法人明治大学評議員永年勤続表彰規程に基づき、満二十年在任した評議員が表彰されるもの。柳谷孝理事長から清水評議員に表彰状と記念品の目録が贈呈された。清水評議員の在任は二〇〇四年から二〇二〇年の五期通算二十年。続けて二〇〇四年から十九年五カ月の勤続となった向井眞一評議員に対して、田村駿評議員会議長から記念品の贈呈が行われた。

清水評議員と向井評議員はそれぞれ、「今後は違った立場から明治大学を応援していきたい。理事会と評議員会が一体となって大学をより良くしていくってほしい」(清水評議員)、「大学が今社会に求められているものは何なのか、常に原点に立ち戻って議論を重ねていきたい」(向井評議員)と述べ、大学にエールを送った。後のさらなる研究活動への意欲が語られた。

●新評議員八十八人が就任

明治大学の最高意思決定機関である評議員会を構成する評議員(第十九期)の任期が二月二十三日で満了となり、二月二十四日、新評議員(第二十期)八十八人が就任した。

新評議員は、学校法人明治大学寄附行為第十七条第二項第一号に定める職務上の評議員十三人(各学部長、大学院長、専門職大学院長および高等学校校長兼中学校長)と、各機関から選出された銓衡委員三十四人で構成する評議員銓衡委員会の選任による評議員七十五人(教員十四人、職員七人、校友三十四人、学識経験者二十人)の計八十八人。うち二十八人が新任、五十六人が再任、四人が元評議員。

新評議員のうち、評議員銓衡委員会の選任による評議員七十五人は、一月三十日に開催された同委員会で銓衡され、二月七日に徳丸平太郎委員長が柳谷孝理事長へ通告。二月八日付で公示された。

新評議員の任期は、二〇二三年九月二十五日開催の評議員会で承認・可決された「学校法人明治大学役員及び評議員等の任期の特例に関する規則の制定について」に基づき、二〇二四年二月二十四日から、二〇二七年四月一日以後最初に招集される、改正私立学校法第六十九条第一項に規定する定時評議員会終結の時までとなる。

【新評議員紹介】

(敬称略・五十音順・青字は連合駿台会会員)

・安達明正^再

一九八六年法学部卒

(株)新都心エージェンシー代表取締役

・荒川薫^再

一九八〇年東京大学工学部卒

総合数理学部教授、同学部長

・井家上哲史^再

一九八〇年工学部卒

理工学部教授、明治高等学校校長兼明治中学校長

・池田一義^再

一九八一年商学部卒

(株)埼玉りそな銀行シニアアドバイザー

・石川日出志^元

一九七八年文学部卒

文学部教授

・石川均^新

一九八〇年商学部卒

前あいおいニッセイ同和損保(株)代表取締役

副社長、e-Netホールディングス(株)常勤監査役

・石川幹人^元

一九八二年東京工業大学理学部卒

情報コミュニケーション学部教授

・石野晴紀^新

一九八二年政治経済学部卒

- ・(株)石野製作所代表取締役社長
- ・岩田守弘^⑨
 - 一九六六年法学部卒
 - (学)明治大学理事
- ・上野正雄^⑨
 - 一九八〇年法学部卒
 - 法学部教授、同学部長
- ・大倉学^⑨
 - 一九八七年経営学部卒
 - 経営学部教授、同学部長
- ・大原幸男^⑨
 - 一九七四年商学部卒
 - (学)明治大学経営企画担当常勤理事
- ・小川知之^⑨
 - 一九八四年京都大学理学部卒
 - 総合数理学部教授、大学院長
- ・尾島育四郎^⑨
 - 一九七〇年法学部卒
 - 三徳印刷(株)代表取締役社長
 - (学)明治大学理事
- ・尾花正明^⑨
 - 一九七四年政治経済学部卒
 - (株)尾花ビル代表取締役社長
- ・甲斐道明^⑨
 - 一九七二年商学部卒
 - 校友会副会長
- ・春日井淳夫^⑨
 - 一九八六年筑波大学体育専門学群卒
- 政治経済学部教授
- ・片倉正美^⑨
 - 一九九一年経営学部卒
 - EY新日本有限責任監査法人理事長
- ・狩野省市^⑨
 - 一九七七年政治経済学部卒
 - (株)インソースエグゼクティブアドバイザー
- ・河合利樹^⑨
 - 一九八六年経営学部卒
 - 東京エレクトロン(株)代表取締役社長CEO
- ・河村博^⑨
 - 一九八一年商学部卒
 - 特定社会保険労務士(東京会)
- ・岸上謙司^⑨
 - 一九八二年商学部卒
 - 職員(調査役、参事)、(学)明治大学理事
- ・木下唯志^⑨
 - 一九七四年経営学部卒
 - 木下サーカス(株)代表取締役社長
- ・木村健一^⑨
 - 一九八八年政治経済学部卒
 - アサガミ(株)代表取締役社長
- ・沓掛英二^⑨
 - 一九八四年政治経済学部卒
 - 野村不動産ホールディングス(株)取締役会長
- ・栗原権右衛門^⑨
 - 一九七一年商学部卒
 - 日本電子(株)代表取締役会長兼取締役会議長
- ・黒澤睦^⑨
 - 一九九九年法学部卒
 - 法学部教授
- ・桑森真介^⑨
 - 一九七八年政治経済学部卒
 - 商学部教授
- ・小暮保^⑨
 - 一九九一年法学部卒
 - 職員(財務部長、参事)
- ・小瀬川郷子^⑨
 - 一九九三年法学部卒
 - 職員(教学企画事務長、参事)
- ・齋藤柳光^⑨
 - 一九六七年文学部卒
 - (一社)健康ニッポン代表理事会長
- ・佐野公哉^⑨
 - 一九七七年農学部卒
 - 片倉工業(株)取締役会長
- ・鈴木賢志^⑨
 - 一九九二年東京大学法学部卒
 - 国際日本学部教授、同学部長
- ・鈴木隆志^⑨
 - 一九八七年商学部卒
 - (株)日本カーゴエクスプレス代表取締役社長
- ・鈴木信泉^⑨
 - 一九八八年経営学部卒
 - 職員(総務部長、参事)
- ・須田努^⑨

- 一九八一年文学部卒
- 情報コミュニケーション学部教授、同学部長
- ・関谷俊郎(元)
- 一九八三年商学部卒
- 職員(学術・社会連携部長、参事)
- ・園田英次(再)
- 一九七一年政治経済学部卒
- 北斗産業(株)取締役会長
- ・高橋郁夫(再)
- 一九七九年商学部卒
- ダイヤナ(株)代表取締役会長
- ・高橋淑浩(再)
- 一九七四年商学部卒
- (学)新潟大原学園理事長
- ・竹内亮(新)
- 一九九四年政治経済学部卒
- 職員(校友連携事務長、参事)
- ・竹中麻子(再)
- 一九八八年東京大学農学部卒
- 農学部教授
- ・竹本田持(再)
- 一九八一年農学部卒
- 農学部教授、同学部長
- ・多田守慶(新)
- 一九九五年商学部卒
- 職員(情報コミュニケーション学部事務長、副参事)
- ・立川真樹(再)
- 一九八四年東京大学理学部卒
- 理工学部教授、同学部長
- ・田中等(再)
- 一九七三年法学部卒
- 丸の内南法律事務所代表弁護士
- ・谷川薫(再)
- 一九八一年工学部卒
- 兼松(株)代表取締役会長
- ・田村駿(再)
- 一九六五年商学部卒
- 北野建設(株)顧問、第十九期(学)明治大学評議員会議長
- ・田母神顯二郎(再)
- 一九八三年早稲田大学第一文学部卒
- 文学部教授、同学部長
- ・出見世信之(再)
- 一九八七年商学部卒
- 商学部教授
- ・外池力(元)
- 一九八三年東京外国語大学外国語学部卒
- 政治経済学部教授
- ・徳丸平太郎(再)
- 一九七一年経営学部卒
- 徳丸織物(株)代表取締役社長
- ・中川敏洋(再)
- 一九七二年経営学部卒
- 元三井住友海上火災保険(株)常勤監査役
- ・長坂純(新)
- 一九八三年高崎経済大学経済学部卒
- 法学部教授
- ・中里猛志(新)
- 一九六六年商学部卒
- 中里猛志公認会計士事務所代表、(学)明治大学財務担当常勤理事
- ・中澤高志(新)
- 一九九八年東京大学理学部卒
- 経営学部教授
- ・中空壽雅(新)
- 一九七六年早稲田大学法学部卒
- 法学部教授
- ・中西晶(再)
- 一九八三年京都大学文学部卒
- 経営学部教授
- ・中林真理子(再)
- 一九九三年商学部卒
- 商学部教授、同学部長
- ・中村義幸(再)
- 一九七一年法学部卒
- 明治大学名誉教授(元情報コミュニケーション学部教授)
- ・名越洋子(新)
- 一九九一年慶應義塾大学経済学部卒
- 商学部教授
- ・西澤豊(再)
- 一九七四年政治経済学部卒
- (公財)新聞通信調査会理事長

- ・島中君代^再
一九六七年文学部卒
- ・(株)ビッグKテニス代表取締役
- ・浜本牧子^新
一九八〇年山梨大学工学部卒
農学部教授、副学長
- ・針谷敏夫^再
一九七五年東京大学農学部卒
明治大学名誉教授(元農学部教授)
- ・平田静子^再
一九六九年短期大学法律科卒
ヒラタワークス(株)代表取締役社長
- ・平山満紀^新
一九八六年東京大学文学部卒
文学部教授
- ・藤重由美子^再
一九七九年法学部卒
東京八丁堀法律事務所弁護士
- ・藤永修一^再
一九八五年政治経済学部卒
政治経済学部教授、同学部長
- ・堀越孝^再
一九七八年法学部卒
銀座シティ法律事務所代表辯護士
- ・増子真也^再
一九七五年経営学部卒
増子真也税理士事務所税理士
- ・松崎優子^再
- ・一九七三年短期大学法律科卒
さくら保育園長
- ・松山直樹^再
一九八一年大阪大学理学部卒
総合数理学部教授
- ・三木一郎^再
一九七三年工学部卒
明治大学名誉教授(元理工学部教授)、
第十九期(学)明治大学評議員会副議長
- ・宮本大人^新
一九九三年筑波大学第二学群比較文化学類
卒
国際日本学部教授
- ・六井元一^再
一九八六年経営学部卒
(株)ダイニチ代表取締役社長
- ・森下正^再
一九八九年政治経済学部卒
政治経済学部教授
- ・安岡範悦^再
一九六八年政治経済学部卒
(学)土佐高等学校監事
- ・矢谷学^新
一九七五年法学部卒
三栄印刷(株)顧問
- ・柳谷孝^再
一九七五年商学部卒
(学)明治大学理事長
- ・山田朝彦^新
一九六六年商学部卒
彫刻家、(公社)日展理事、日本芸術院会
員、(株)日本金属工芸研究所会長取締役
- ・山田浩哉^再
一九九二年法学部卒
職員(就職キャリア支援事務長、参事)
- ・山本良一^新
一九七三年商学部卒
J. フロントリテイリング(株)取締役会議長
- ・弓野理恵^再
一九八二年政治経済学部卒
(株)バンダイロジバル代表取締役会長
- ・吉村孝司^再
一九八四年経営学部卒
会計専門職研究科教授、同研究科長、専門
職大学院長
- ・渡邊建三^再
一九七七年法学部卒
わたなべコンサルタント代表、公認会計士
- ・渡邊友亮^再
一九九六年理工学部卒
理工学部教授、副学長
- ・渡佳和^新
一九九五年農学部卒
職員(スポーツ振興事務長、参事)

●司法試験合格祝賀会を開催

二〇二三年司法試験合格祝賀会が二〇二三年十二月十三日に駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催された。対面での実施は四年ぶりとなり、二〇二三年合格者に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で祝賀会が行われていなかった二〇二〇～二〇二二年の合格者も招待された。さらに、来賓や明治大学法曹会会員、法人役員、大学役職者と、専門職大学院法務研究科（法科大学院）、法学部、法制研究所の教員など約百五十人が参加し、合格者を祝福した。

祝賀会は大六野耕作学長によるあいさつで開会し、柳谷孝理事長、校友で特別紫紺賛助員の渡邊建三氏、大学役職者の祝辞と続いた。それぞれ「人や世の中の幸せのために尽力してほしい」という激励の言葉や、「教育補助講師などの形で大学に力を貸していただき」と後進育成の協力を呼びかける言葉などが寄せられた。

その後、四人の合格者が代表として登壇。二〇二三年在学中受験合格者の柏木利直さん（3年、既修コース）は、「明治大学出身であることを誇りに、社会から求められるような立派な法曹になりたい」と力強く誓い、佐野前尚さん（二〇二二年度修了、未修コース）は、「合格は何度も答案を書き、それに付き合っていたいただいた先生方のおかげ。勉強は大

変だったが有意義な学生生活を送れた」と感謝の思いを述べた。さらに、二〇二〇年合格者で、教育補助講師を務める笠原菜摘さん、二〇二一年合格者で視覚障がいを乗り越えて合格した奥山茂さんからも、改めて喜びの言葉が述べられ、法曹として過ごす日常の様子などが報告された。

二〇二三年試験で法務研究科からの合格者は二十九人（うち在学中受験合格者五人）、この他に本学学部出身合格者は二十五人（明治大学法制研究所調べ・一月現在）。

★明治大学渡邊建三・容子法曹振興資金

在学中合格者五人に報奨金を授与

合格祝賀会に先立ち、同日アカデミーコモンで、二〇二三年司法試験において法科大学院在学中に受験し、合格した五人の大学院生への報奨金授与が行われた。明治大学渡邊建三・容子法曹振興資金運営委員会（委員長 上野正雄法学部教授）が執り行い、運営委員会委員と同振興資金の寄付者である渡邊建三氏・容子氏が同席した。授与後には両氏から合格者へ祝福の言葉がかけられた。

司法試験の受験資格は、これまで法科大学院修了または司法試験予備試験合格であったが、制度改正により二〇二三年司法試験から所定の要件を満たした法科大学院三年生も受験することが可能となり、新制度後の初年度

となった今回の試験では、法務研究科から三年生十九人が受験し、五人が合格した。

●職員向け「マネジメント研修」

明治大学は「大学マネジメント研修」を二〇二三年十二月一日に駿河台キャンパスで開催し、専任職員約七十人が参加した。この研修は、専任職員を対象に、組織力強化のために学内リソースや課題の共有を図り、業務と組織について教育的・経営的視点を持ってマネジメントできる力を養うことを目的として行われているもの。今回は、対面とオンラインのハイブリッド形式で行われ、「評議員会の役割と明治大学職員に期待するもの」をテーマに、当会長で明治大学評議員会議長の田村駿氏による講演が行われた。

田村氏は、自身が議長に選出された経緯や第十九期評議員会が行ってきた取り組みを紹介した。さらに、多くの校友評議員が上場企業の経営者や弁護士、公認会計士、税理士など多角的かつ多様な知識を持つ方から選出されている、コンプライアンスを重視し、客観的な視点で大学運営やガバナンスを見守っていると解説した。最後に、職員に期待することとして、「職員は組織全体の最適化を担う専門家」とした上で、「全ての部署の職員の皆さまに自信と誇りを持って活躍していただきたい」と締めくくり、講演会は終了となった。

●OB社長

▽(株)大丸松坂屋百貨店Ⅱ宗森耕二氏(一九九八年商学部卒・四十九歳)

●総合数理学部

宮下教授とキリンとの共同研究「エレキソルト」が日本学術会議会長賞を受賞

第六回「日本オープンイノベーション大賞」(主催Ⅱ内閣府他)の表彰式が二月十四日、内閣府講堂で行われ、総合数理学部宮下芳明教授とキリンホールディングス(株)による共同研究の取り組みが日本学術会議会長賞を受賞。

受賞タイトルは「電気力で減塩食の塩味を約一・五倍に増強する技術の開発、その技術を活用した製品『エレキソルト』の開発」。受賞理由は、人々の健康な食生活への大きな貢献とナトリウムイオンの動きを制御するというアイデアが高く評価されたため。また、産学連携によるユニークな発明で、知名度を生かしたさらなる洗練化、展開への期待という点も評価された。

表彰式では、宮下教授とキリンホールディングス(株)ヘルスサイエンス事業部の佐藤愛氏に表彰状と記念の盾が贈呈された。受賞スピーチで宮下教授は「賞を励みにエレキソルトの社会実装と普及に努め、おいしさと健康を両立できる未来を目指していきたい」と決意を述べた。

表彰式の様子はオンライン配信も行われ、視聴者による「推しプロジェクト」投票ではエレキソルトの取り組みがノミネートされた十六組中で二位となったことが発表された。

日本オープンイノベーション大賞は、内閣府が日本のオープンイノベーションをさらに推進するために今後のロールモデルとして期待される先導性や独創性の高い取り組みを表彰するもの。内閣総理大臣賞をはじめとする十三種の賞があり、二〇二二年までに七十三件の取り組み・プロジェクトが表彰された。

●「学生部長賞表彰式」を初開催

二〇二三年度「明治大学学生部長賞表彰式」が一月九日、駿河台キャンパス・リバティホールで開催され、在学中の団体・個人二十六組が表彰を受けた。これは、二〇二二年度にインカレ等の各種大会で優勝した体育会の団体や個人を対象に開催された優勝報告会を、体育会以外の全ての学生の取り組みに対象を広げて初めて行われたもので、連合父母会の協力を受けて実施された。

表彰式は、アナウンス研究会の学生が司会を務め、西山春文学生部長(商学部教授)のあいさつから開式した。西山学生部長は、「今回の受賞を自信に、周囲へも配慮していく心の余裕を持ち、さらなる活躍に期待しています」と受賞者らを激励した。

連合父母会の萩村隆幸会長の祝辞に続いて、受賞団体・学生が一組ずつ登壇し、その成果や取り組みなど表彰理由の紹介とともに、喜びのスピーチが行われた。柔道・講道館杯90キ級で優勝した体育会柔道部の森健心さん(政経4)は、「大会優勝という成功体験は、これからの人生においてどんな困難にも立ち向かえる大きな武器になると思う」と振り返った。交響楽団幹事長の潮田駿さん(総合数理3)は、「楽団創立一〇〇周年を迎え、大学への長年の貢献を評価いただいた。今後は二〇〇周年、三〇〇周年に向けて精進していきたい」と意気込みと関係者への謝辞を述べた。各スピーチの後に、表彰状と副賞のめいじろうぬいぐるみが贈呈された。

最後に体育会応援団によるエールと校歌斉唱が行われ閉式となった。受賞者と表彰理由の一覧は大学ホームページに掲載されている。

●新素材を用いた人工骨に関するシンポジウムを開催

生命機能マテリアル国際インスティテュート(研究代表者Ⅱ相澤守理工学部教授)は、二〇二三年十二月十五日に生田キャンパス第二校舎で、シンポジウムを開催した。

シンポジウムは、「二〇二三年度第一回『次世代バイオマテリアル』を考える会『生命機能マテリアル…人工材料に如何にして生

命を吹き込むか？」と題して企画され、名古屋工業大学大学院工学専攻の春日敏宏教授による講演が行われた。

春日教授は、「骨補填材料の機能強化策」と題し、新素材を用いて線形状人工骨の研究開発に取り組んできたその研究の過程と成果などについて説明を行った。発表の最後には総括として、「強化策を立てる際には、具体的に実施することで目標を達成し、成長につなげることができる」とアドバイスで締めくくられた。その後、参加者との質疑応答では、人工骨の素材に関する具体的な質問なども寄せられ、高い関心を集めている様子だった。

生命機能マテリアル国際インスティテュートは、超高齢社会に突入したわが国の、高齢者の生活の質の向上などが求められている現状を背景に、次世代の医療である「再生医療の実現」や「QOL向上を指向した生命機能マテリアルの開発」などを推進することを目的として設立された。今後も継続して今回のようなシンポジウムなどを行っていきたいとしている。

●第十三回「図書館書評コンテスト」開催

図書館書評コンテストの表彰式が二月二日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催された。第十三回となった今回は二十九編の応募があり、最優秀賞に源氏鶏太著『青空

娘』の書評を書いた藤原純人さん（農2）が選出された。さらに、優秀賞に鈴木智也さん（専門職大学院会計専門職研究科M1）と牧野未央さん（経営2）が選出され、特別賞など合わせて十二人が表彰された。

表彰式では、図書館長の村上一博法学部教授や、協賛の紀伊國屋書店、三省堂書店、丸善雄松堂の3書店の代表者から、受賞者一人一人に賞状と副賞が手渡された。続いて、図書館副館長の牧野淳司文学部教授による講評では、「その本の世界観や面白さを的確に伝えるために力量を要するジャンルがあり、本選びは重要」という解説と共に、「その人しか書けない書評が評価された」と選定委員の意見を紹介した。

受賞者スピーチで藤原さんは、『青空娘』が高度経済成長期に書かれた本であることを紹介し、「コロナ禍に読んで、登場人物のエネルギーを感じた。本はいつの時代も希望を与えるものだと思う」と喜びの言葉を述べた。

このコンテストは、明大生がより一層読書に興味を持ち、図書館を積極的に活用することを目的に毎年開催されている。十二人の受賞者や対象図書は図書館ウェブサイトを(<https://www.meiji.ac.jp/library/>)に掲載されている。受賞作品を冊子にまとめ、各図書館で配布、同サイトへの掲載など広く公開される予定。

●博物館

明大スポーツ新聞七〇周年記念展

人間で言えば古希を迎えた明大スポーツ新聞部のメモリアル展示「スポーツの原点は『ホイッスルにはじまり、ホイッスルにおわる。』」が二月五日に開幕した。展示は目玉である一九五三年七月一日発行の創刊号の復元紙面から始まる。日本のスポーツ新聞創刊とほぼ同時期の学生による大学スポーツに焦点を当てた新聞発刊は画期的な出来事で、初代編集長石井義郎氏のインタビュー映像から当時の様子をよく理解することができる。展示室を取り巻くように配置された創刊号以降、現在に至る各年代の紙面が圧巻。一九八〇年代にはカラーの紙面が登場し、掲載される写真も躍動的に迫力が増してゆく様子が印象的である。別に展示された部室での編集風景写真のパネルと併せて見ると、この間の時代の推移を実感できる。また、体育会の活動のみならず学生生活に寄り添う紙面からは、学生による学生のためのメディアとして成長してきたことも分かる。学外のメディアに掲載された社会的評価の数々にも注目したい。

次回展覧会は、「女性法曹養成機関のパイオニア 明治大学法学部と女子部」（主催：明治大学史料センター）と、「連続テレビ小説『虎に翼』展」（主催：NHK財団）を開催予定。会期は、三月二十五日～十月二十八日。

● 駿台体育会表彰式

少林寺拳法部・城澤選手に特別功労賞

二〇二三年度に活躍した体育会各部と個人選手に駿台体育会から表彰が行われた。一月二十日に開催された駿台体育会表彰式・優勝報告会ならびに駿台体育会・監督会合同懇親会では、畠中君代会長から9部の部長・監督と、8選手に記念の盾の贈呈が行われた。

続いて各部を代表してサッカー部の井上優部長と、特別功労賞受賞の城澤大河選手が謝辞に立った。選手個人の受賞は次の通り。

▼特別功労賞・少林寺拳法部・城澤大河(政経2)

▼功労賞・水泳部・田渕海斗(情コミ3)

▼功労賞・少林寺拳法部・小田翔(商3)

▼敢闘賞・水泳部・松山陸(商4)

▼敢闘賞・水泳部・水口知保(経営4)

▼敢闘賞・水泳部・長尾佳音(経営2)

▼敢闘賞・水泳部・上川畑英(政経1)

▼敢闘賞・卓球部・宮川昌大(情コミ4)

● サッカー部から六人がJリーグへ

体育会サッカー部は一月十二日、Jリーグ各クラブへの加入内定選手六人の記者会見を第三合宿所(世田谷区八幡山)で開催した。

会見では、体育会サッカー部の井上優部長(文学部教授)のあいさつに続いて、栗田大輔監督が各選手のプレースタイルや人物像を

紹介。さらに、「プロスポーツ選手は元氣や感動を与えられる仕事。正しい道を進んで良いアシリートになってほしい」と激励の言葉をかけた。続いて、六選手がそれぞれマイクを持ち、部関係者への謝辞や内定の喜びを語るとともに、加入後の活躍を誓った。

同部からは十四年連続でのプロ選手輩出となり、二〇二三年八月には佐藤恵允選手(文4)が独ブンデスリーガのヴェルダー・ブレイメンに加入している。各クラブへの加入内定選手は以下のとおりです(敬称略)。

▼阿部稜汰(政経4) / FC今治 ▼井上樹(法4、主将) / ヴァンフォーレ甲府 ▼太田龍之介(政経4) / ファジアーノ岡山 ▼岡哲平(政経4) / FC東京 ▼田中克幸(商4) / 北海道コンサドーレ札幌 ▼村上陽介(法4、副主将) / 大宮アルディージャ

◆ 駿台トピックス

昨年度「連合駿台会学術奨励賞」を受賞された商学部の浅間哲平先生の書籍に、フランスの出版社が、受賞を告知する帯をつけました。またフランスで「ロベール・ド・モンテスキウ賞」を受賞されました。

詳しくは、明治大学のホームページをご覧ください。

<https://www.meiji.ac.jp/shogaku/topics/2023/mkmt0000011y0cahtml>



経済、法曹、文化など各界でご活躍の明治大学OB諸氏よ！ 来たれ！「連合駿台会へ！」

「連合駿台会」は、1953年に設立された「茗水クラブ」と、1964年に設立された「明友クラブ」が2002年に統合して設立された歴史と伝統のあるOB組織です。

1月24日、第29回連合駿台会学術賞・学術奨励賞の記念講演および授賞式と「明治大学と連合駿台会が相互の情報交換を図り、母校の教育振興と地域社会の発展に寄与する」事を目的とする駿台懇話会が、4年ぶりにフル開催され、過去最多の146人が参加しました。

大六野耕作学長から表彰状、田村駿会長から記念品の授与、懇親会では柳谷孝理事長からごあいさついただき大いに盛り上がりました。

連合駿台会は、話題の講師による講演が大人気です。ぜひ、楽しい例会に参加しませんか。



連合駿台会学術授与の様子

~~~~~ 各界で活躍されておられる明治大学校友のご入会を歓迎いたします ~~~~~

資料のご請求はこちらまで **連合駿台会事務局**

TEL : 03-3296-4747 FAX : 03-3296-4748 HP : <https://www.rengosundaikai.jp>  
Email : [rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp](mailto:rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp)

★明治大学広報(3月1日号)に掲載された大学への支援広告。今後も2ヵ月に1回掲載していく予定です。

## ◆駿台懇話会出席者

## ○明治大学ご招待者

柳谷孝、大六野耕作、田部井茂、荒川利治、尾島育四郎、岸上謙司、奥山弘幸、三木一郎、出見世信之、山本昌弘、尾花正明、増子真也、清水秀夫、平井克彦、乾孝治、浜本牧子、吉村孝司、上野正雄、中林真理子、藤永修一、荒川薫、伊藤直樹、黒澤睦、酒井文彦、長谷川滋、福岡英朗、河野理、堀内健、鈴木博之、渡佳和、山田浩哉、飯塚浩司、関谷俊郎、鈴木信泉、竹内亮、高瀬功、鈴木賢、宮下芳明、谷口良生、同ご同伴、豊川浩一、井田正道、鹿喰善明、宮城善一

(敬称略)

## ○会員出席者

青木幹則、青柳勝栄、秋谷勝俊、浅井宏、安達明正、有賀隆治、石川均、伊原敏雄、岩田守弘、潮田伊佐夫、梅野修、浦川竜哉、榎本知佐、大野正美、大原幸男、大前実之、大村託現、奥村勝広、鬼塚和也、片倉正美、百木田康二、川島英広、河村博、神田達治、清野明男、久保聡、栗原権右衛門、黒崎昭男、小池康浩、小濱雅説、小松健、小山修、小山有彦、根田哲雄、根田吉雄、齋藤柳光、三枝富博、酒井喜壽、佐藤健、佐藤仁、佐藤陽子、佐野公哉、柴田清之、杉浦伸二、鈴木隆志、関口勝裕、関根均、瀬戸正道、高澤徹、高村

昌秀、武内裕、田代恭一、田邊弥、同ご同伴、田村駿、田村健、樽見俊之、当山明彦、富田浩志、富水流孝二、永井伸彦、中川敏洋、中里猛志、中澤良平、中野祥宏、中村康一、中村豊、二井康夫、西澤豊、野口一哉、萩原裕次、長谷川進一、畠中君代、濱田憲孝、飛弾健一、平田桂子、深代尚夫、福田和彦、古本英樹、堀越孝、眞壁八郎、榎野泰、同ご同伴、松崎優子、宮下隆、向殿政男、村岡健、谷口弘恭、安田信幸、山口大介、山口政廣、山田晃久、山田憲典、山田朝彦、山端康幸、吉田菊次郎、渡邊健三、

## 【編集後記】

今年は年初から能登地震に飛行機事故と大災害が相次ぐ、波乱のお正月になりました。被害に遭われた方に対して衷心よりお見舞いを申し上げます。また連合駿台会会長を務められた長堀守弘様の訃報に接し、悲しい気持ちでいっぱいです。私事ですが、長堀様は私に入会の機会を与えてくださった方で、お会いするといつもニコニコと温かく迎えてくださいました。ご冥福をお祈り申し上げます。

さて、先日、千葉・幕張にて開催されていた「木下大サーカス」を拝見いたしました。子供の頃にサーカスへ行った記憶があるのですが、じつくり観覧するのは今回が初めてでした。まずは会場をぐるりと取り囲む人の列にびっくり！人気の高さを伺わせました。ショーが始まるや否や、ハラハラドキドキする展開にただただ圧倒され、手に汗握る興奮した時間を過ごしました。あまりの楽しさに再度観に行きました。

空中ブランコや、ジャグリング、バランシングアクロ、オートバイショーなどは日々の鍛錬の積み重ねの結晶であり、その肉体美は優雅で美しさを感じ、じつくりと見入ってしまいました。ライオンやゾウ、ロバたちの演技もこれまた可愛らしいんです。瞬間移動などのイリュージョンも圧巻で、エンターテインメントとして大変クオリティの高いもので、次は何が出てくるのかなというワクワクいたしました。

印象的だったのは、当会副会長でもある木下社長の自ら先頭に立ってメガホンを持ってお客様を誘導しておられた姿で、胸が熱くなりました。経営者は率先垂範、現場主義が大事であると改めて感じました。連合駿台会には魅力的な諸先輩がたくさんおられます。これからも学びの場、成長の場として、会員の皆様からご指導を受けますことを楽しみにいたしております。

(相臺志浩)

